福島第一原子力発電所事故に関わる環境汚染と大気科学の役割

中島映至
(teruyuki.nakajima@aori.u-tokyo.ac.jp)
学術会議会員
東京大学大気海洋研究所

講演の要点は以下の通りである。

・「『原子力施設等の防災対策について』の見直しに関する考え方」(原子力規制委員会、H24.3・H25.3) における同心円状及び緊急時モニタリングに基づく防護措置に関する日本気象学会等の議論を紹介した。放射性物質の輸送シミュレーションや衛星システムなどあらゆる手段を併用すべきである。また、気象庁・環境省の既存システムと統合的に整備すべきである。

・日本学術会議の「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」(H26.2) を紹介しながら、緊急時における情報公開の在り方について議論した。有効な施策決定にはボトムアップの情報を共有するメカニズムが不可欠である。その過程での情報発信には、科学者による質の判断、不確実性と説明を付与が必要である。

・日本学術会議・東日本大震災復興支援委員会・放射能対策分科会による課題の抽出に関する議論を紹介した。科学者が参画した形の府省横断的学術調査・研究企画調整体制を政府に整備することが必要である。初期汚染状況と今後の対策には総合的な環境研究が必要である。